

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教師が意図的な話合いの場を設定したり、児童同士の意見に差異が出るような発問や補助発問を行ったりすることで、児童が他者と意見を交流することに意欲的に取り組み、他者の考えを共感的に受け入れながら自分の考えを広げようとする姿が見られた。そして、自分の考えを伝える活動を通して、話すこと・聞くことの資質・能力の向上につなげることができた。
- ・国語辞典や漢字辞典を机の横に掛けて日常的に使えるようにしていることで、様々な教科ですすんで辞典を活用し、分からない言葉を調べようとする児童の姿が見られるようになった。

(2) 課題

- ・自分の考えを話すことはできるが、書いて文章に表すことができていない児童がいる。書くことの授業を通して構成を組み立てて文章を記述する経験を積み重ねるとともに、日記指導を通して様々な文章記述の仕方にふれられるようにする等、教育活動全体の中で積極的に表現活動を取り入れ、書くことの資質・能力の向上に努めていく。
- ・各教科等の学習において既習の漢字を使う意識が低く、学習したことが生活の中に生かせていない現状がある。また、漢字を日常的に使っていないことから熟語を書く力が定着していない課題も見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	○全ての領域において目標値と全国平均を上回っている。 ○領域別正答率でみると、前年度の校内平均と比べて「読むこと」は2pt 上回っているものの、国語科全体の結果としては下回っている。 ○他の領域に比べ、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の正答率は低いものの、目標値や区、全国の平均値を大きく上回っている。		

第5学年	○観点別では、どの観点も10pt以上全国平均を上回った。 ○領域別では、どの領域も10pt以上全国平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」では、22pt以上上回った。また、「読むこと」では、18pt上回っており、正答率が高い領域であると言える。 ○問題の内容別では、どの問題も全国平均を上回った。しかし、「調べたことをもとに文章を書く」が3ptと、他の内容に比べると全国平均との差が小さい。	○観点別では、どの観点も10pt以上全国平均を上回った。 ○領域別では、どの領域も10pt以上全国平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」では、20pt以上上回った。 ○問題の内容別では、どの問題も全国平均を上回った。「言葉の学習」が7ptと、他の内容に比べると全国平均との差が小さい。 (第4学年時)	
第6学年	○観点別では、どの観点も10pt程度全国平均を上回った。 ○領域別では、どの領域も5pt以上全国平均を上回った。特に「書くこと」では12pt以上上回っており、全国平均に比べると正答率が高い領域であると言える。 ○問題の内容別では、どの問題も全国平均を上回った。しかし、「漢字を書く」では7pt、「和語・漢語・外来語」では2pt差と、他の内容に比べると全国平均との差が小さい。	○観点別では、どの観点も10pt以上全国平均を上回った。 ○領域別では、どの領域も10pt以上全国平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」では、20pt以上上回った。 ○問題の内容別では、どの問題も全国平均を上回った。「言葉の学習」が7ptと、他の内容に比べると全国平均との差が小さい。 (第5学年時)	○全ての観点において、目標値、前年度平均値、区、全国平均値を上回っている。 ○「書くこと」の観点では、18pt上昇している。 ○「書くこと」の中でも、「文章を書く」に関する内容は他の領域に比べて正答率は低い。しかし、目標値や区、全国の平均値は大きく上回っている。 ○全体の校内正答率は5.1pt上昇している。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ○言葉の学習の問題で、「主語と述語の関係について理解している」という問題において目標値を下回っており、他の問題よりも正答率が低くなっていた。	○目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ○文章を書く問題で、「相手や目的を意識して、文章の構成を考えている」という問題において他の問題よりも正答率が低くなっていた。	○辞典を用いて意欲的に漢字や言葉の意味を調べる姿は見られるが、漢字を書く力の定着にはつながっていない。文章中で積極的に使用する意識を高めることが必要である。 ○すすんで意見を交流する姿が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。一方で、4クラスの平均正答率には差が見られるため、クラスの実態に応じた対策も必要である。	○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。一方で、4クラスの平均正答率には差が見られるため、クラスの実態に応じた対策も必要である。	○見通しをもって学習に取り組む意識に課題が見られる。前時までの学習内容を本時につなげたり、これまでの学習を発展させて課題に向かったりする態度の向上を図りたい。 ○集中して学習に取り組むことができる児童が多い。その一方で、粘り強く文章を書き、自分の思いや考えを表現することに積極的に取り組めない児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うように指導する。 ○筆順に沿って丁寧に書く力を育て、文章の中で正しい文字や表現、既習の漢字を使えるようにする。	○伝えたい事柄について、順序を考えて話すことができるように、順序の言葉や話型を示しながら指導する。 ○文章の構成で「中」の部分詳しく書くために、メモを活用して文章の構成を考えられるように授業を展開する。	○常に相手意識や目的意識をもって学習に取り組めるよう、導入の場面等で児童にとって身近な教材を示したり、学習のゴールを明確に示したりする。 ○文章を書くことに親しむために、週に一回程度日記の記述に取り組む活動を取り入れる。 ○振り返りの時間を基に自

		分の学習の進め方を確認することで、意欲的に取り組めるようにする。
--	--	----------------------------------

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○一文が長くなりすぎないように、主語と述語・修飾と被修飾との関係等を意識した文章構成を考えさせる。また、思考ツール等を活用して目的や相手に応じた内容を考え、根拠を明確にしながら自分の考えを話したり書いたりできるように指導する。 ○既習の漢字を使って文章を書く意識を高められるよう、熟語調べや漢字紹介等の活動を積極的に取り入れる。	○文章を推敲する時間を確保することを通して、書いた文章を読み返す習慣を身に付けられるようにする。 ○国語の学習を要としながら、各教科等の学習において相手や目的を考えて文章を書くように指導する。また、日々の日記指導や学習の振り返り等を通して自分の考えを表現する機会を増やし、伝えたいことを分かりやすく文章にまとめる経験を積み重ねられるようにする。	○単元計画を立てたり学習を振り返ったりする時間を設け、自らの学びや達成感を味わえるようにする。 ○書く題材を児童の身近なものにして練習したり、ICTを活用しながら言葉や図でまとめたりできるようにする。そこで得た技能を、各教科等での自己表現にも生かせるように指導していく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○語彙を増やしたり正しい言葉の使い方を理解したりできるよう、プリントを用いて繰り返し指導する。また、「話すこと」や「書くこと」の学習において文例を用いることで正しい言葉の使い方を押さえ、児童自ら使用できるようにしていく。 ○漢字テストを定期的に実施し、漢字を書く力を鍛える。また、各教科等の学習や家庭学習において、既習の漢字を使用するよう繰り返し指導を行っていく。	○毎時間、自分の考えを記述する時間をしっかりと確保する。また、書き方の例を示したり、視点を明確に指定したりすることで、児童が課題の意図に沿って記述できるようにする。 ○国語の学習を要としながら、各教科等の学習や朝学習、日記指導等において繰り返し文章を書く経験を積み重ねられるようにする。自分の考えを文章で表現する習慣を身に付けるとともに、適切な文章構成を捉えられるように指導する。	○児童の疑問や課題意識、なりたい自分像や難しいと感じたこと等に寄り添いながら、児童主体の課題や単元計画を設定する。 ○学習の振り返りシート等を工夫し、児童自身の学びの成果や達成度が視覚的に捉えられるような構成にする。